

# Code Orange

—Save Life—

	代表者	綾田亮 (医B 4年)
構成員	中村真 (医学B 6年) 松隈悠 (医学B 6年) 寺田悟 (医学B 6年)	
	永島健太 (医学B 5年) 小川裕子 (医学B 5年)	
	古原千明 (医学B 5年) 江見咲栄 (医学B 5年)	
	木村貴一 (医学B 5年) 濱野弘樹 (医学B 5年)	
	孝橋信哉 (医学B 5年) 岩橋晶子 (医学B 4年)	
	島袋太一 (医学B 4年) 中溝一允 (医学B 4年)	
	梶間未葵 (医学B 4年) 松尾欣哉 (医学B 5年)	
	仲田成美 (医学B 4年) 吉村沙記 (医学B 4年)	
	下川純希 (医学B 4年) 上原美香 (医学B 4年)	
	岡本恵 (医学B 4年) 吉田陽 (医学B 4年)	
	木村翔一 (医学B 4年) 田中友里 (医学B 3年)	
	岡本彩 (医学B 3年) 森麻里母 (医学B 3年)	
	近藤萌 (医学B 3年) 中島京 (医学B 3年)	
	縄田慈子 (医学B 3年) 久本沙和 (医学B 3年)	
	新庄英梨子 (医学B 3年) 瀬戸口尚登 (医学B 3年)	
	永久成一 (医学B 2年) 田代恵莉 (医学B 2年)	
	小関元太 (医学B 2年) 加藤優里 (医学B 2年)	
	河生多佳雄 (医学B 2年) 浜辺龍太郎 (医学B 2年)	
	明野由里奈 (医学B 2年) 矢田祥子 (医学B 2年)	
	佐村美穂 (医学B 2年) 宮本翔太 (医学B 2年)	

## 1. 上半期を振り返って

Code Orange は結成してから4年目となり、上級生のみであった団体から2年生、3年生の構成員の割合が増えてきた。4年生以上の構成員は忙しいことも多く、活動に積極性を失いかねないと感じた。今年度より、各イベントでプロジェクトリーダー（以下、PL）を設定し、4年、3年から各1~2名選出しPLを中心にイベントの企画、準備を進めた。今後は2年生もPLとして参加してもらい、低学年のうちから企画、準備の方法を知ってもらい新たな挑戦をしていってもらいたいと考えている。もちろん上級学年も、これまで活動をやってきた経験、葛藤を生かし、活動していくことを確認した。

上半期の活動で行ったイベントは、①対象をしぼった講習会、②フリー参加型の講習会、の二つに分けることができる。①では、事前に受講者の人数、情報がある程度把握し講習会を行うものである。部活動講習会では部活所属者、高校BLS講習会では高校2年生といったように、人数やニーズがある程度分かっているため予想しやすく、企画、準備が行いやすい。消防署や日赤が行う講習会は大部分がこの講習会スタイルに含まれると考えられる。②は、これまでの医学祭での心肺蘇生法講座のように、どんな人がどのくらい来るのかなど不確定な情報が多い上での講習会となる。呼び込みから、講習のタイムテーブル、インストの幅広い知識が必要になる。これら二つに分けて上半期の活動を報告する。

## 2. 上半期の活動内容

- 1) 6/25 部活動講習会@小串キャンパス
- 2) 7/7 七夕祭@吉田キャンパス
- 3) 8/5 BLS ポスター展示&体験コーナー@山口大学工学部オープンキャンパス
- 4) 8/17 高校BLS講習会@山口県立下関西高等学校
- 5) 9/1 第1回図書館BLS講習会

- 6) ホームページ改設
- 7) 定期活動日の設定

### 3. 対象をしばった講習会活動（部活動講習会，高校 BLS 講習会）

#### 1) 部活動講習会

6月25日，部活動講習会が開催され，医学部の部活動に所属する学生58名が受講した。構成員16名参加した。部活動講習会は講義とBLS講習会の大きく二つに分けることができる。昨年度まで医学部学務課運営であったが，今年度より医学部学生自治体が運営するようになった。そのため，昨年までは教員が「熱中症」の講義を行っていたが，今年は構成員が「BLS」に加え，部活動中に起こり得る「捻挫・骨折」，「熱中症」について，予防・対処法の講義を行った。BLS講習会では，受講者6~8名に対し，構成員2~3名で対応した。BLSの流れやその中でも特に重要である胸骨圧迫とAEDの使用方法について詳しく説明した。講義や講習の内容・方法は，顧問である笠岡俊志先生にご指導いただき，当日も笠岡先生をはじめ山口大学附属病院先進救急医療センターの先生方に監督としてきていただいた。新しい構成員も参加しており七夕祭の前に行われるため，学外での活動前に，言葉の表現方法や指導方法などを見直す良い機会となっている。

BLS講習会で，「上級コース」（医療従事者向け）と「初級コース」（一般市民向け）を設けたが，事前の説明不足により受講者はなんとなくコースを選択していた。そのため，受講後のアンケートでは，全体的に高評価であるものの「ニーズにあっていない」という解答が極一部見られた（図1）。これを踏まえ，来年度はコースの内容説明はもちろんのこと，受講者の意識を比較するため受講前にも簡単なアンケートの導入や部活動に所属していない学生にも参加を促していくことが求められる。



写真1 講義の様子



写真2 BLS講習会の様子

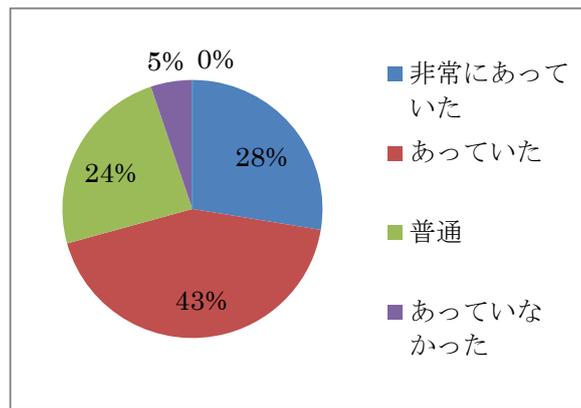


図1 ニーズに合っていたか

## 2) 高校 BLS 講習会

8月17日、山口県立下関西高等学校にて、BLS講習会を行った。構成員7名で高校二年生22名に対して約1時間半の講習会を行った。高校を訪問し、あらかじめ決まった人数を対象にした講習会はCode Orangeとしては初めての活動だった。「胸骨圧迫」「AED」「窒息解除」の3グループを作成し、各グループを約20分ごとに回ってもらい講習会スタイルにした。雰囲気作り、目的達成の難しさを感じた。高校生に楽しく受けてもらうにはどうしたらいいか。まずは講義をすべきか、それともまずはやってみてもらうか。対象が高校生と決まっているのであれば、もっと明確な目標を構成員で共有すべきだった。今後の高校BLS講習会に向けたスタートとなるイベントになった。高校生にチャーリー（FBAO人形）は大人気である。



写真3 高校 BLS 講習の様子

## 4. フリー参加型の活動（七夕祭、BLSポスター展示&体験コーナー、第1回図書館講習会）

### 1) 七夕祭

7月7日、吉田キャンパスにて七夕祭が開催され、Code Orangeも共通1番教室を使用し、ブースを出展した。構成員14名が参加した。来場カードに記入したブース来場者は62名であった。Code Orangeの大きな目標は一般市民への心肺蘇生法を含むBLSの普及である。学生のみならず、地域の方々が多く来場される七夕祭は、普及の最適な機会と言えよう。昨年同様、一般の方にも親しみやすいよう、講習会だけでなく、展示物も用意した（写真1）。展示物の内容としては、BLSに関する簡単なクイズが主体となっており、来場者の方に付き添ってスタッフが解説し、より深い理解をしてもらうよう努めた。クイズに関しては、昨年展示したものを基盤にしつつ、難易度を少し上げたものも追加作成し展示した。さらに昨年同様、希望者に対しては、その場で個別にBLS講習を行った（写真2）。講習受講者は約40名であった。また、クイズおよび講習を受講した来場者に対してアンケートを取り、知識・理解の深まり、心肺蘇生法に対する意識の変化を調査した。有効回答数は少ないが、「心肺蘇生法を正しく行う自信はどのくらいありますか？」という問いに対し、クイズ・講習を受けた後は、受ける前と比較し「60～80%自信がある」「80～100%自信がある」の割合が大きく増加しており、講習の効果があったものと思われる（図1）。今回来場していただいた方は、大学生はもちろん、小学生や年配の方まで様々であった。講習に関しては、特に厳密にマニュアル化せず、担当したスタッフ本人と受講者にどういったことを学ばせるかを一任した。このため、大部分はスタッフ・受講者共に十分満足のいく講習となったようだが、中には非常に時間

を取らせてしまう講習班も存在し、来年へ向けての反省点となった。そして、講習の対象が多岐になる今回のようなイベントでは、やはりそれぞれの目的や能力に合わせた講習が必要であることを構成員一同痛感した。この反省を活かし、下半期の活動に鋭意取り組んでいきたい。



写真4 七夕祭展示物。スタッフによる解説。



写真5 講習会。左は中高生、右は小学生が受講者。

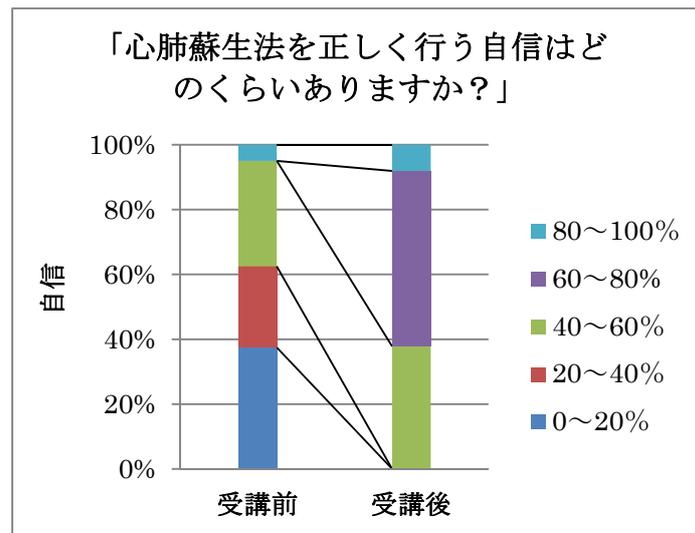


図2 受講前後の意識の変化 (有効回答数 受講前40名, 受講後37名)

## 2) 山口大学工学部オープンキャンパス

8月5日、山口大学工学部オープンキャンパスに参加した。おもプロブースにて、動画、ポスター展示を行った。また、BLS体験コーナーを設置し、約10名がBLS人形、AEDトレーナー、FBAO人形を使い、BLSを体

験した。オープンキャンパスということから、高校生のみを想定していたが、高校の教員や近所の小中学生も来場しており準備不足を感じた。小児人形がなかったため、小学校低学年の子には成人人形は固く、胸骨圧迫が難しかったようだった。AEDにとっても興味を持ち、2種類のAEDを操作してもらうことができた。フリー参加型のイベントでは誰が来るかをできるだけ予想し、準備していくことが大切だと感じた。また、年齢の低い時からBLSに触れることで将来興味を持ってもらえるのではないかと考えた。健康な人に胸骨圧迫を行ってしまう事故が起こらないよう注意しながら小学生、中学生にも講習会を開いていきたい。



写真6 ポスターでBLSの重要性を伝える



写真7 高校生にBLSを体験してもらう

### 3) 第1回図書館講習会

9月1日、宇部市立図書館2階講座室にて、第1回図書館BLS講習会を行った。これまで祭りなどのイベントと同時開催してきた市民向け講習会をはじめて単独で行った（高校生対象のBLS講習会を除く）。活動場を確保するにあたり、宇部市教育委員会の後援をいただき、図書館使用許可をもらうなど手続きに予想以上の時間を使用した。事前に講習会の開催を知らせ、受講者を募集したが応募はなく、急遽、当日はフリー参加型の講習会となった。2階ということ、看板が分かりづらい、呼び込みができないなど多くの反省点があった。来場者は2名であり、広報、普及の難しさを痛感した。「まずはやってみる。」ということから、普及とはなにか、まず誰を対象にするべきか、など普及、イノベーションについて考えるきっかけとなった。



写真8 講習会会場の外観（クイズ）

## 5. 定期活動の設定

9月2週目から定期活動日を設定した。週に一回、昼休みに集まることでメンバーの交流、知識の共有を行おうということを目的とする。Code Orange を結成してからこれまで、イベント前や不定期にメンバーが集まり、勉強会や練習会を行ってきた。うれしいことに構成員は増えてきた一方で、情報共有、全員のベクトルの向きを合わせる事が難しくなっている。構成員が集まる機会を定期的に設けることで積極性を高めていきたい。第一回、第二回は「搬送法」について学んだ。搬送法を市民へ普及するわけではないが、構成員にとっては、いざという時、また講習会でインストを行う際に役立つと考えられる。というのも、講習を受講される方の中には赤十字などほかの講習会を受講されている方もおり、それぞれの講習でどんなことをしているのか把握することもインストする際に必要になると考えたからだ。第3回は「普及というイノベーション」という題目でディスカッションを行った。普及するためにまずはどんな人を対象に活動していくべきかを考えた。次回は2年生を中心に「BLS」について復習したいと思っている。全学年が参加し、企画する活動にしていきたいと思う。



写真9

## 6. 広報

Code Orange のホームページ (<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~orange/index.html>) をリニューアルした。また、facebook ページも作成し、講習会の予定や、様子などを発信している。大学生などが活動の様子などを見て興味を持ってくれることを願っている。

## 7. 下半期の活動について

下半期は以下の活動を予定している。

- 1) 医学科フレッシュマンセミナー 心肺蘇生法実習（9/29）
- 2) 医学祭 市民のための心肺蘇生法講座（11/10, 11）
- 3) 宇部駅伝 自転車救急隊・心肺蘇生法講座
- 4) 市民 BLS 講習会・高校 BLS 講習会
- 5) 他大学でのワークショップ参加

## 8. 上半期の予算報告（9月28日現在）

消耗品 11,899 円      備品 4,450 円      合計 16,349 円